

鳥取市の教育改革

ここ数年、全国的に教育改革が進むなか、本市教育委員会では、「まちづくりは人づくりから」の考えに基づく工夫をこらした本市独自の事業を展開し、「明日を担う人づくり」に力を注いでいます。今回は、学校教育の充実の一環として進めている主な事業について紹介します。

小中一貫校推進事業

平成16年度度から、湖南小学校と湖南中学校をモデル校として、義務教育9カ年間で継続的に教育を行う小中一貫校について研究を行っています。



小中一貫校推進委員会

今年度は湖南小・中学校を「鳥取市小中一貫校推進校」に指定し、「一貫校で人づくり 地域づくり！ いろんな経験 仲間づくり・自分づくり 地域は学校応援団」をテーマに掲げ、小・中学校合同による教育活動の実践を進めています。

本市教育委員会では、推進母体である「小中一貫校推進委員会」の意見を踏まえ、本市ではじめてとなる湖南小・中学校による小中一貫校の平成20年4月の開校をめざして取り組んでおり、この事業を、

本市の学校づくりの新たなモデルケースにしていきたいと考えています。

学校評議員制度

信頼される開かれた学校づくりを進めるため、鳥取市では平成15年度から「学校評議員制度」を導入し、現在、すべての小・中学校で実施しています。

これは、各小・中学校に、3から5人配置している学校評議員が、学校運営についての意見や提言を述べ、校長がその意見を参考にして、運営を

行っていく制度で、開かれた学校づくりを進めるうえでも効果があります。

この評議員は、できる限り幅広い分野のみなさんから意見をいただくため、保護者や地域住民などの中から、学校評議員にふさわしい人を校長が推薦し、本市教育委員会が委嘱します。



湖南小・中学校の一貫教育事業「読み聞かせ隊」

学校評議員制度

